



## 建学の精神

山形学院は、教育基本法及び学校教育法に従い、福音主義キリスト教の信仰に基づいた教育を行なうことにより、神を中心とした人生観をもって、真理を追究し、すべての人と社会に対し、愛と奉仕の業を行ない人類の福祉と世界の平和に貢献する人間を育成するため、学校教育を行なうことを目的とする。



山形学院高等学校 校章・マーク  
創立 25 周年に制定。森谷家の家紋「三ツ柏」をもとに三つの柏が一つになって丸くなり「和」を表わしています。「信・望・愛」とともに「生徒・保護者・教師」の三つを意味しています。

## 学校法人 山形学院

〒990-0039 山形県山形市香澄町3-10-8

TEL : 023-641-4115 FAX : 023-641-4121



## 創立

山形学院は、1908年(明治41)森谷たまが歌掛稲荷神社の社務所を借りて(裁縫伝習所)を始めたところから始まりました。始まりはキリスト教とは関係ありませんでしたが、森谷は女性が社会人として有用な人材になるために、職業的自立の必要性を目指しただけでなく、恵まれない人たちに手づくりの衣服や食べものを配るなど、福祉の精神を実践した人でした。

裁縫伝習所は高い評判を得て手狭になったために、材木町の染色工場に移り、専攻科と研究科、研究所も開設しました。1926年(大正15)香澄町の大宝寺に移ったころには、200人ほどの生徒がいたといわれています。1932年(昭和7)各種学校令によって(裁縫精華女学校)と改称、10年後に森谷が亡くなり、2代目校長に阿部ヨシエが就任しました。

戦争が終わり何度も文部省に陳情しましたが、なかなか認可が下りず、1948年(昭和23)やっと財団法人森谷学園(山形精華高等学校)として再スタートを切りました。このとき校地は遠藤伸五郎から、建物と設備は森谷の養子となった森谷美代子から寄贈されています。

2年後に学校法人に組織変更し、1957年(昭和32)普通科を設置。学校の経営は順調に推移し、1966年(昭和41)短大設置を画策し、ミッションスクールとして再出発する方針が打ち出されました。

ミッションボードからの資金援助の可能性も含め、日本基督教団に相談が持ちかけられ、宮城学院や東北学院から3名のクリスチャンを理事に迎えました。

結果として短大設置は途中で断念されますが、ミッションスクールとして再出発するという方針はキリスト教教育を理念とすることに置き換えられ、今も守り続けられています。1985年(昭和60)、キリスト教学校教育同盟への加入が認められました。

## 創立の背景と歴史

森谷たまは、1884年(明治17)山形県西村山郡谷地町で生まれました。幼いときに近所の岩谷家に養子に行きますが、この家に女兒が誕生したために学齢期になってから実家に戻ります。小学校高等過程で、のちのちまで師と仰ぐ矢作ひでに出会いました。想像ですが、矢作から女性の自立と教育の大切さを教えられたのでしよう。森谷は母が後妻に入った遠藤家に17歳で連れ子として迎えられるが、のちに上京して東京私立裁縫女学校、東京府教育会附属家事科教員養成所に学びます。卒業後は東京私立裁縫女学校で教鞭をとり、山形に戻りました。

当時の山形の女子教育は、日露戦争後(明治38年ごろ)に山形市立高等学校が県立になってあるのみで、たった一校の女子学校は地方有産階級や高級官吏の子女が行く学校で、一般庶民の女子が学ぶところはありませんでした。こういう時代でしたので、東京で学び、教えた経験がある森谷の裁縫伝習所は、大変な人気だったといわれています。森谷はまた、和裁だけではなく、女性としての生き方も教えました。

裁縫伝習所を始めたときの援助も、大宝寺と山形精華高等学校の敷地の支援も、母の嫁ぎ先である遠藤家からのものでした。遠藤家は大地主で、この支えなくして森谷の志は実現できなかつたと言っても過言ではありません。山形精華高等学校の初代理事長には遠藤伸五郎が就任しています。

1966年(昭和41)には1556名の生徒が在籍し、学校経営は順調に推移していましたが、ベビーブームが去ったことでこの年をピークに生徒数が激減してしまう、という試練を経験しました。1960年代末には1500人いた生徒が400人台にまで減少したのです。教職員の合理化が行なわれ、それに反対して労働組合が立ち上がりました。遠藤伸五郎理事長は辞任、遠藤栄が代わりに就任しましたが半年あまりで退任し、1970年(昭和44)佐藤利吉が就任しました。このとき校名を(山形女子学院高等学校)と変更しています。

佐藤は組合との軋轢を解消し、調理科を設置するという新たな活路を見出しました。調理科には男子生徒も入学し、校名も1973年(昭和48)(山形学院高等学校)に改称しました。1975年(昭和50)には、再び1000人を超えるところまで生徒数も回復しました。

困難に対し一致団結して立ち向かったこの経験は、財産として残されました。これは、1933年(昭和8)の創立25周年に制定した校章の由来のとおり、三つの柏が一つになって丸くなり「和」を表わしていることは、まさに「信・望・愛」の三つと「生徒・保護者・教師」の三つを意味するものということに通じています。

また佐藤が理事長に就任して以来、35年間祈り続けた礼拝堂が2005年(平成17)ついに新築されました。これは日本たばこ株式会社から売り出された隣地を、多くの企業との厳しい競争の中でわずか1万円の僅差で落札できたことによります。長年、祈りとともに山形学院を導いた佐藤は97歳まで現役の理事長として、森谷の蒔いた種を育み続けました。



創立者 森谷たま(1884~1942年)  
和裁によって手に職をつけるだけでなく、女性としての生き方も教えました。

